

○事業所名	千葉市大宮学園児童発達支援センター（たけのこルーム 小グループ）		
○保護者評価実施期間	令和6年 12月 23日 ～ 令和7年 1月 24日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	25人	(回答者数) 21人
○従業者評価実施期間	令和7年 1月 6日 ～ 令和7年 1月 24日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5人	(回答者数) 5人
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 3月27日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	親子通園により児童への理解が深まり、保護者の児童への関わり方や保護者支援に繋がる。	療育活動を通して、親子の関わり方や児童の特性、理解に繋がるようグループに合わせ工夫している。	職員は、内外部の研修に積極的に参加し知識や技術を学び、質の向上を目指し児童と保護者の信頼関係を深める。
2	保護者同士のつながりが持てるようになる。	保護者同士の情報交換や交流が持てるように分離の時間を設けている。	分離の実施における回数などが、グループや曜日によって偏りがあるため、計画を立て計画的に実施する。
3	小集団での個々に合わせた療育活動を行っている。	一人ひとりに合った関りと友達同士の関わり（コミュニケーション）、ルール理解（社会性）などの経験が積み重なるように工夫している。	職員が、内外部の研修に積極的に参加し知識や技術を学び、質の向上を目指す。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者との日々の相談や聞き取りは、グループ活動の中で聞くことが出来るが、個別支援計画面談以外の面談の回数が少ない。	充実した療育活動を行うことや児童の安全を考えると、療育内での面談が難しい状況が多い。	療育時間以外での面談など、計画的に日程を調整して行う。
2	各マニュアルの周知と説明を行い、避難訓練等実施をしているが、欠席により避難訓練に参加されていない児童と保護者がいる。	契約、更新時に利用契約書、重要事項説明書、運営方針の冊子にて、各マニュアルの説明を行い周知している。 避難訓練の日程も、お便りや掲示をして周知しているが、都合により欠席になることが多い。	利用契約書、重要事項説明書、運営方針の冊子などから書面での説明を行う。避難訓練の日にちが分かり次第周知し、参加を促す。
3	園外活動の実施が限られてしまう。	立地条件や療育時間に限りがあるため、園外活動の内容や実施が限られてしまう。	園外活動にとらわれず、園内で出来る活動の幅を拡げていく。